

# - 皮膚がんを治す - あなたの目標・夢の実現の近道が必ず見つかります

## 診療科としての人材育成のポイント

皮膚科という診療科の中で、皮膚悪性腫瘍の診断・治療、特に治療の分野は非常に人材の少ないところです。そんな中で若いみなさんがこの分野を自身の専門にしたいと考えておられることにまず敬意を表し、現役スタッフ・OB が力を合わせてみなさんが真の Dermatologic Oncologist となるように全力で導くことをお約束します。

悪性黒色腫をはじめとする皮膚悪性腫瘍は少し前まで手術以外治療法が進歩せず、早期のものから遠隔転移例まで治療といえば“Surgery, Surgery and Surgery”であると言われていました。ところが長年の研究成果が実り、近年、治療は飛躍的に進歩し、新しい免疫療法すなわち免疫チェックポイント阻害薬や低分子抗体分子標的薬といった薬物治療の開発はまだまだ盛んに行われています。これに伴って皮膚がん治療のためには Dermatologist ではなく、Dermatologic Oncologist としての専門的な知識や総合的な技術が必要になってきました。国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科は、他施設の追随を許さない圧倒的な症例数を持ち、知識と経験の豊富なスタッフが若手医師と共に診療と臨床研究に取り組んでいます。我々は患者さんにも、そして研修に来られる若手医師の皆さんにも「がんセンターに来て良かった」と思ってもらえる診療科を目指しています。



### 国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科での研修の特徴

- 国内一の皮膚がん High Volume Center で学ぶ
- がん専門病院で唯一新専門医制度下の基幹施設
- 圧倒的な症例数による豊富な臨床経験
- 診断、外科治療、薬物治療、臨床研究のバランスの取れた研修内容
- 希望に応じた自由な他科ローテーション制度
- 積極的な学会活動

## 【レジデント3年コース】

### 1年目

- ・ 希望により他診療科、他領域をローテーション（※病院の規定に基づき CCM 研修あり）

※レジデント2年コースの場合は6か月

### 2-3年目

- ・ 皮膚腫瘍科専従研修（臨床診断・病理診断・外科治療・薬物治療・放射線治療）
- ・ 科学的な視点から治療方針を決定する力と実際に最善の治療を行うためのスキルを身につける
- ・ 臨床研究（学会発表・論文作成）

※レジデント2年コースの場合は1年6か月

## 【専攻医コース（基幹施設型 / 5年）】

専門医取得トレーニング全5年のうち、3年を当施設で研修

1~3年目 レジデント3年コースと同様の研修内容

4~5年目 全国の連携施設（主に大学病院）で一般皮膚科研修

皮膚科  
専門医  
取得

## 【連携大学院コース（4年）】

1年目 連携大学院に入学し研究テーマを決定する 1~3年目の研修内容はレジデント3年コースに準ずる

4年目 学位論文を完成させる

学位  
取得

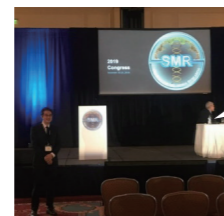
## 短期レジデントコース（6か月~1.5年）

## 専攻医コース（連携施設型 / 1~2年）

## 臨床と研究の二刀流で Dermatologic Oncologist を育成する



2019年  
第118回日本皮膚  
科学会総会（於名古屋）  
で学会賞を受賞



SMR (The Society  
of Melanoma  
Research) 2019で  
講演  
(米国 Saltlake City)

## 研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院  
皮膚腫瘍科

教育担当：  
山崎 直也

メールアドレス：  
nyamazak@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP  
<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html>



Facebook 中央病院 教育・研修情報  
<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>



## 数字で見る皮膚腫瘍科

最近10年間の  
悪性黒色腫症例数

1,562 件

最近10年間の  
上皮性皮膚がん症例数

1,264 件

- ・ 有棘細胞がん：437 件
- ・ 基底細胞がん：360 件
- ・ 汗腺がん：125 件
- ・ 乳房外パジェット病：240 件 など

最近10年間の  
表在性肉腫症例数

190 件

- ・ 隆起性皮膚線維肉腫：90 件
- ・ 血管肉腫：100 件

2019年年間手術件数

- ・ 悪性腫瘍切除：220 件
- ・ センチネルリンパ節生検：64 件
- ・ 所属リンパ節郭清：42 件
- ・ 指趾切断・離断：16 件
- ・ 皮弁形成：37 件
- ・ 植皮：52 件

2019年  
年間がん薬物療法件数

延べ 1,566 件

レジデント / がん専門修練医修了後  
皮膚悪性腫瘍指導専門医試験

合格率 100 %

## 【がん専門修練医コース（2年）】

### チーフレジデント（2年間）

- ・ 皮膚腫瘍科専従研修
- ・ スタッフを補佐しレジデントのリーダーとして活動
- ・ 2年目は臨床研究・トランスレーショナルリサーチなどを並行して行う（研究計画立案、国内に加え国際的な学会発表・論文作成）

## 充実した研究指導の成果としての最近3年間の英文論文（研修者が First Author のもののみ）

1. Omata W, Tsutsumida A, Namikawa K, Takahashi A, Oashi K, Yamazaki N. Sequential combination chemotherapy of dacarbazine (DTIC) with carboplatin and paclitaxel for patients with metastatic mucosal melanoma of nasal cavity and paranasal sinuses. Clin Med Insights Case Rep. 10: 1-5, 2017.
2. Shibayama Y, Namikawa K, Sone M, Takahashi A, Tsutsumida A, Sugawara S, Arai Y, Aihara Y, Suzuki S, Nakayama J, Imafuku S, Yamazaki N. Efficacy and toxicity of transarterial chemoembolization therapy using cisplatin and gelatin sponge in patients with liver metastases from uveal melanoma in an Asian population. Int J Clin Oncol. 22(3):577-584, 2017.
3. Muto Y, Ng W, Namikawa K, Takahashi A, Tsutsumida A, Nishida M, Yamazaki N. Success of rechallenging dabrafenib and trametinib combination therapy after trametinib-induced rhabdomyolysis: a case report. Melanoma Res. 28(2):151-154, 2018.
4. Oashi K, Namikawa K, Tsutsumida A, Takahashi A, Itami J, Igaki H, Inaba K, Yamazaki N. Surgery with curative intent is associated with prolonged survival in patients with cutaneous angiosarcoma of the scalp and face-a retrospective study of 38 untreated cases in the Japanese population. Eur J Surg Oncol. 44(6):823-829, 2018.
5. Muto Y, Kitano S, Tsutsumida A, Namikawa K, Takahashi A, Nakamura Y, Yamanaka N. Investigation of clinical factors associated with longer overall survival in advanced melanoma patients treated with sequential ipilimumab. J Dermatol. 46(6):498-506, 2018.
6. Tsutsui K, Takahashi A, Namikawa K, Yamazaki N. Advanced extramammary Paget's disease treated with neoadjuvant chemotherapy: A report of two cases. Online ahead of print. Australas J Dermatol. 2019.
7. Tsutsui K, Namikawa K, Takahashi A, Yamazaki N, Tsutsui K. Reconstruction with scrotal flap for extramammary Paget's disease of the groin, penis, and scrotum: a single-institution case series. Online ahead of print. Int J Dermatol. 2019.

## レジデントプログラム ■ 皮膚腫瘍科

### § 推奨するコース

#### ●レジデント3年コース

対象者	・基本領域専門医を取得し、さらに当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:皮膚科専門医/サブスペシャリティ専門医:皮膚悪性腫瘍指導専門医 ・悪性腫瘍関連の国際学会での筆頭演者やPeer review journalの筆頭著者として国際的に活躍できることを目指す者
研修目的	皮膚悪性腫瘍全般に対する臨床診断・病理診断・外科治療・薬物治療・放射線治療に精通し科学的な視点から治療方針を決定し、遂行することができると共に指導的な立場で各施設の中心となって活動することができる人材を育てる。
研修内容	・入院・外来患者の診療を通じて上記の項目(臨床診断・病理診断・外科治療・薬物治療・放射線治療)を学ぶ。 ・また、3年間の研修期間のうち1年は本人が希望する他の領域をローテーションし、幅広く個々のスキルアップを行うことができる。 ・研究成果について学会発表、論文執筆を行う。
研修期間	3年 ※そのうち一定期間の交流研修を認める ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	①日本一の症例数と治療実績を有するHigh Volume Centerで研修を行うことができる ②悪性黒色腫は皮膚原発に限らず、粘膜・眼・原発不明の症例も数多く経験できる ③希望する他の診療科で目的に応じた短期研修をすることができる ④希望があれば他施設での0.5年間の交流研修を認めている ⑤新薬開発のための治験数が圧倒的に多い ⑥JCOG皮膚腫瘍グループの中心施設として臨床試験について学ぶことができる
その他 (症例数や手術件数など)	2018年度診療実績 ・新患数/650例 (メラノーマ187例、有棘細胞がん62例、乳房外パジェット病24例、血管肉腫21例、汗腺がん13例、メルケル細胞がん11例など) ・手術件数/289件(全身麻酔117件、局所麻酔172件) ・薬物治療/(延べ)1,235件(外来1,012件、入院223件)

#### ●レジデント2年コース

対象者	・基本領域専門医を取得し、さらに当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:皮膚科専門医/サブスペシャリティ専門医:皮膚悪性腫瘍指導専門医 ・悪性腫瘍関連の国内・国際学会での筆頭演者やPeer review journalの筆頭著者として国内のみならず国際的に活躍できることを目指す者
研修目的	皮膚悪性腫瘍全般に対する臨床診断・病理診断・外科治療・薬物治療・放射線治療に精通し科学的な視点から治療方針を決定し、遂行することができると共に指導的な立場で各施設の中心となって活動することができる人材を育てる。
研修内容	・入院・外来患者の診療を通じて上記の項目(臨床診断・病理診断・外科治療・薬物治療・放射線治療)を学ぶ。 ・希望があれば0.5年程度、他の領域をローテーションしスキルアップを行う。 ・研究成果について学会発表、論文執筆を行う。
研修期間	2年 ※そのうち一定期間の交流研修を認める ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う
研修の特色	①日本一の症例数と治療実績を有するHigh Volume Centerで研修を行うことができる ②悪性黒色腫は皮膚原発に限らず、粘膜・眼・原発不明の症例も数多く経験できる ③希望する他の診療科で目的に応じた短期研修をすることができる ④希望があれば他施設での一定期間の交流研修を認めている ⑤新薬開発のための治験数が圧倒的に多い ⑥JCOG皮膚腫瘍グループの中心施設として臨床試験について学ぶことができる
その他 (症例数や手術件数など)	2018年度診療実績 ・新患数/650例(メラノーマ187例、有棘細胞がん62例、乳房外パジェット病24例、血管肉腫21例、汗腺がん13例、メルケル細胞がん11例など) ・手術件数/289件(全身麻酔117件、局所麻酔172件) ・薬物治療/(延べ)1,235件(外来1,012件、入院223件)

#### ●がん専門修練医コース

対象者	・原則として基本領域の専門医を取得済み、かつ、当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者で、サブスペシャリティ専門医や、さらに皮膚悪性腫瘍に特化した修練を目指す者 ※基本領域専門医:皮膚科専門医/サブスペシャリティ専門医:皮膚悪性腫瘍指導専門医 ・悪性腫瘍関連の国際学会での筆頭演者やPeer review journalの筆頭著者として国際的に活躍できることを目指す者
研修目的	・皮膚悪性腫瘍全般に対して診断、治療、臨床研究、translational researchに取り組み皮膚悪性腫瘍診療に対するレベルの高い総合力を身につける。 ・日本の皮膚悪性腫瘍診療の中心的な立場で指導力を発揮する人材となるとともに国際人として活動することを目的とする。
研修内容	・皮膚悪性腫瘍の診断、治療、臨床研究を自立して行っていく。 ・スタッフを補佐し、レジデントのリーダーとして活動する。 ・研究所やJCOGでの研修や他施設への交流研修などを活用しスキルアップを行う。 ・国際学会で発表し、英語論文を完成させることによって研修の成果としての結果を残す。
研修期間	2年間 ※そのうち一定期間の交流研修を認める
研修の特色	①日本一の症例数と治療実績を有するHigh Volume Centerで研修を行うことができる ②悪性黒色腫は皮膚原発に限らず、粘膜・眼・原発不明の症例も数多く経験できる ③研究所、JCOGなど他の領域で幅広く研修する機会を持つことができる ④希望があれば他施設での0.5年間の交流研修を認めている ⑤新薬開発のための治験数が圧倒的に多い ⑥JCOG皮膚腫瘍グループの中心施設として臨床試験について学ぶことができる
その他 (症例数や手術件数など)	2018年度診療実績 ・新患数/650例 (メラノーマ187例、有棘細胞がん62例、乳房外パジェット病24例、血管肉腫21例、汗腺がん13例、メルケル細胞がん11例など) ・手術件数/289件(全身麻酔117件、局所麻酔172件) ・薬物治療/(延べ)1,235件(外来1,012件、入院223件)

### § その他のコース

#### ●連携大学院コース

対象者	レジデント2年コース、がん専門修練医コースで研修を行いながら、当院の連携大学院制度を利用して学位取得を目指す者
研修目的	皮膚悪性腫瘍全般に対する研修を通じて指導専門医の資格と学位を取得することを目的とする。
研修内容	・1年目に連携大学院に入学し研究テーマを決定し、4年目に学位論文を完成させる。 ・臨床においては皮膚悪性腫瘍全般に対する臨床診断・病理診断・外科治療・薬物治療・放射線治療を学ぶ。 ・また、3年間の研修期間のうち1年は本人が希望する他の領域をローテーションし、幅広く個々のスキルアップを行うことができる。
研修期間	4年 (レジデント2年+がん専門修練医2年) ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う
研修の特色	①日本一の症例数と治療実績を有するHigh Volume Centerで研修を行うことができる ②悪性黒色腫は皮膚原発に限らず、粘膜・眼・原発不明の症例も数多く経験できる ③希望する他の診療科で目的に応じた短期研修をすることができる ④希望があれば他施設での一定期間の交流研修を認めている ⑤新薬開発のための治験数が圧倒的に多い ⑥JCOG皮膚腫瘍グループの中心施設として臨床試験について学ぶことができる
その他 (症例数や手術件数など)	2018年度診療実績 ・新患数/650例 (メラノーマ187例、有棘細胞がん62例、乳房外パジェット病24例、血管肉腫21例、汗腺がん13例、メルケル細胞がん11例など) ・手術件数/289件(全身麻酔117件、局所麻酔172件) ・薬物治療/(延べ)1,235件(外来1,012件、入院223件)

#### ●専攻医コース(基幹施設型)

対象者	初期研修を修了後、当科を基幹施設として後期研修を行うことで日本皮膚科学会認定皮膚科専門医を目指す者
研修目的	皮膚科専門医として必要な総合力を身につけるとともに幅広い皮膚科診療の中でも特に皮膚悪性腫瘍全般の診断・治療に対してレベルの高いスキルを身につけることを目的とする。
研修内容	入院・外来患者の診療を通じて皮膚悪性腫瘍全般に精通するための項目(臨床診断・病理診断・外科治療・薬物治療・放射線治療)を学ぶ。また、3年間の研修期間のうち1年は本人が希望する他の領域をローテーションし、幅広く個々のスキルアップを行うことができる。 研究成果について学会発表、論文執筆を行う。
研修期間	3年
研修の特色	①皮膚科専門医取得のための5年間のうち3年間がん専門病院で研修を行うことで多くの皮膚科疾患の中でも特に悪性腫瘍に対して高い専門性を持つことができる ②日本一の症例数と治療実績を有するHigh Volume Centerで研修を行うことができる ③悪性黒色腫は皮膚原発に限らず、粘膜・眼・原発不明の症例も数多く経験できる ④希望する他の診療科で目的に応じた短期研修をすることができる ⑤新薬開発のための治験数が圧倒的に多い ⑥JCOG皮膚腫瘍グループの中心施設として臨床試験について学ぶことができる
その他 (症例数や手術件数など)	2018年度診療実績 ・新患数/650例 (メラノーマ187例、有棘細胞がん62例、乳房外パジェット病24例、血管肉腫21例、汗腺がん13例、メルケル細胞がん11例など) ・手術件数/289件(全身麻酔117件、局所麻酔172件) ・薬物治療/(延べ)1,235件(外来1,012件、入院223件)

#### ●専攻医コース(連携施設型)

対象者	以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
研修目的	皮膚科専門医を取得することを目標としています。同時に短期間の集中的な研修で皮膚腫瘍科医として基本的ながんの診療経験を積むことが目標です。
研修内容	国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科を連携施設とする各基幹施設のカリキュラムに従って一定の期間皮膚悪性腫瘍について学びます。
研修の特色	所属する基幹施設のカリキュラムの範囲内で研修者のニーズにあわせた柔軟な研修が可能です。

#### ●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方

期間・研修方法：6か月～1年6か月。皮膚腫瘍科研修

※6か月を超える場合は病院の規定に基づき CCM 研修を行う

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は12-13ページを参照